1 リスクアセスメントの手法で危険の芽を摘み取ろう

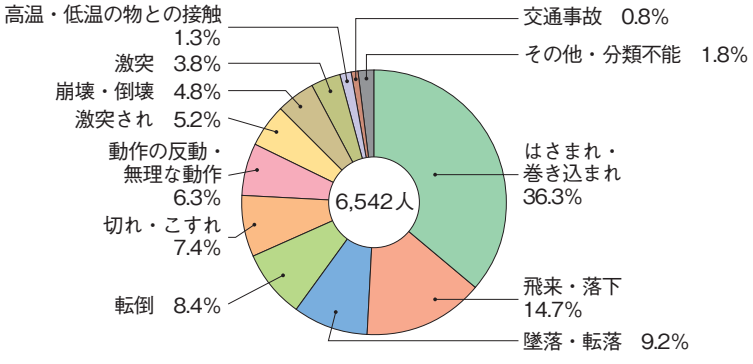
職場では多種多様な作業が行われ、また、新たな作業方法の採用、変更及び作業の機械化などが進んでおり、それらの実態や特性にあった安全衛生対策を行っていく必要性が高まっています。職場にある様々な危険の芽（リスク）を見つけ出し、災害に至る前に、先手を打って対策を施し、リスクの除去・低減措置を行い、更なる労働災害の減少を図るための手法の一つに「リスクアセスメント」があります。

金属製品製造業における休業４日以上の死傷災害について事故の型別にみると、「はさまれ・巻き込まれ」によるものが最も多く、「飛来・落下」、「墜落・転落」、「転倒」、「切れ・こすれ」と続きます。このように金属製品製造業では、設備と工作物に挟まれたり、巻き込まれる災害のほか、種々の原因による災害が発生しています。そのため、金属加工作業及びそれに付帯する作業について、先ずは危ないと思われる作業を絞り込み、できるところからリスクアセスメントを始めてみましょう。

本マニュアルは、金属製品製造業に限らず、様々な業種で行われる金属加工作業に伴う災害を防止するためのリスクアセスメント実施のすすめ方をまとめたものです。このマニュアルを活用して、災害防止に努めましょう。

金属製品製造業における事故の型別労働災害発状況（休業４日以上の死傷災害）

事故型 / 年	墜落転落	転倒	激突	飛来落下	崩壊倒壊	激突され	はさまれ巻き込まれ	切れこすれ	高温低温の物との接触	動作の反動無理な動作	交通事故	その他分類不能	合計
平成14年	666	588	279	1,011	324	409	2,632	529	93	388	40	98	7,057
平成15年	615	601	253	1,035	305	366	2,686	534	82	390	42	122	7,031
平成16年	593	544	240	997	301	365	2,609	563	100	365	43	104	6,824
平成17年	586	559	254	969	296	362	2,375	463	71	392	39	88	6,454
平成18年	603	552	250	962	312	337	2,377	482	86	411	54	116	6,542
平成18年割合(%)	9.2	8.4	3.8	14.7	4.8	5.2	36.3	7.4	1.3	6.3	0.8	1.8	100.0

資料出所：労働者死傷病報告

金属製造業における事故の型別労働災害発生状況（平成 18 年）